

視察研修レポート

テーマ 地域おこし協力隊の取組み状況

課題 (1) 空き家を活用した地域の活動拠点の整備について
(2) 新たな観光商品の開発について

視察地 兵庫県南あわじ市

産業建設
観光常任
委員会

7月28日~29日

空き家対策利用の支援を調査

所管事務調査



南あわじ市役所

視察目的

地域おこし協力隊の先進事例として、今後の当町における協力隊の活動の参考になると考え、兵庫県南あわじ市を視察先として調査研究を行いました。

南あわじ市は空き家を活用した地域の活動拠点の整備、新たな観光商品の開発など当町が直面している問題も先進的に取り組んでいます。

視察報告

南あわじ市は平成17年1月に4町による合併で生まれた市で、人口4万6000人、淡路島の最南端に位置し、さらに汽船で10分ほどの場所に、今回の目的地「沼島」があります。

沼島は、昭和30年代までは島内に2500人が居住していましたが、現在では500人に減少、空き家も200軒まで増加しているとのことでした。

協力隊が、「沼島観光案内所「吉甚」」を運営

平成24年より2名の協力隊が島に移住し、平成25年には島内の空き家を利用した沼島観光案内所「吉甚」が、あわじ環境未来島構想重点地区推進事業にて整備が行われました。



「吉甚」

た。

協力隊が土産物開発、軽喫茶の運営など積極的に活動したことにより、交流人口が増加し、何より淡路島から沼島へ渡り沼島汽船の利用者が増加しました。

平成23年には12万人まで落ち込んだ利用者数が平成26年には13万5000人まで増加しました。

しかし任期終了後、島内に残った協力隊員は収入面などの諸事情により、現在はいないとのことでした。

今後は行政側がバックアップし、雇用形態を柔

軟にして副業や自立できる方策を模索したいと、担当されているふるさと創生課でのお話でした。

南あわじ市では協力隊の希望や能力に合わせ役所内の各課へ配属しています。

このように今回の調査では、当町が直面している喫緊の課題に大いに参考になる事例がたくさんありました。

今後は町政運営に役立つよう、さらに研究を重ね町執行部へ提案していきたいと考えます。



「吉甚」観光案内所